

令和3年度
(2021年度)

観光にぎわい部の取り組み

<部長の方針・考え方>

地域産業の活性化とコロナ禍における市内事業者への継続的な支援策の実施
文化芸術活動の拠点施設・総合文化芸術センターを中心として新たな賑わいづくりの展開
本市特性をふまえた観光施策の戦略的・総合的な推進と東部地域や枚方宿地区の活性化

<部の構成>

観光交流課
商工振興課
農業振興課
文化生涯学習課
文化財課
スポーツ振興課

<主な担当事務>

(1)観光及び都市交流に関すること。
(2)商工業に関すること。
(3)農業及び里山に関すること。
(4)文化及び生涯学習に関すること。
(5)文化財に関すること。
(6)スポーツに関すること。

具体的な取り組み：外部人材を活用した地域産業の活性化

外部人材として商工振興戦略コーディネーターを設置し、本市における商工振興事業の全般について戦略的に展開する方向性を確立するとともに、市内事業者が取り組む地域活性化事業への支援などに対して専門的立場から助言や提言等を得ることで、より効果的で実効性のある具体の事業に取り組みます。

これまでから本市の創業支援、開業支援の促進を目的として位置付けている地域活性化支援センターに統括マネージャーを設置し、民間の知見を取り入れた経営相談や講演会・セミナーなどを実施し、創業支援強化を図るとともに、経済団体・金融機関と本市による連携を強化しています。

また、商店街等の活性化という課題解消に向けて商店街等が主体的に空き家・空き店舗のリノベーションを実施する場合に、活動に必要な費用の一部支援を行うほか、市内企業若者雇用推進事業をプロポーザル方式で委託することで、企業・求職者それぞれのニーズに合った質の高い雇用につなげ、雇用施策の促進につなげます。

具体的な取り組み：コロナ禍における市内事業者への継続的な支援

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた市内事業者への継続的な支援の一環として、引き続き「事業者支援総合相談窓口」を設置し、国・府も含めた各種支援策の最新情報の提供や専門家を配置して専門的な相談にも対応します。併せて、小規模事業者事業継続支援金の支給のほか、長期化するコロナ禍をふまえて、国・府の支援を受けることのできない市内の個人事業主・小規模事業者の支援策を引き続き検討します。

また、市内の関係団体との連携や企業訪問などを通して、市内事業者が抱える課題の把握に努めるほか、NICT（国立情報通信研究機構）や地域産業クラスター研究会などと連携を図りながら、ICTを活用して課題の解決につながる方策を検討します。

具体的な取り組み：総合文化芸術センターを中心とした賑わいの創出

文化芸術活動の拠点施設である総合文化芸術センターを中心に、市内事業者などと連携した取り組みを通して、市駅周辺の活性化を図ります。また、センター主催事業を豊富化するとともに、文化芸術拠点施設と枚方宿地区の双方が、賑わいの波及を図ることができる新たな取り組みを進めます。

現在整備中の総合文化芸術センター本館については、8月末に開館記念式典を挙行し、大阪フィルハーモニー交響楽団による柿落とし公演を皮切りに、本市出身の世界的ヴァイオリニスト・五嶋みどり氏の公演や4人の文化芸術アドバイザーによる事業など、オープニングイヤー企画として、魅力的で多彩なジャンルの事業について一年を通して順次展開していきます。

新規事業として、吹奏楽や合唱、演劇、美術といったジャンルごとに市民に発表の機会を提供する市民総合文化祭や、枚方市展（公募型美術工芸選抜展）を開催します。

具体的な取り組み：大阪・関西万博を見据えた観光方針のとりまとめと施策の戦略的推進

令和7年の大阪・関西万博開催時に淀川上流から万博会場までの船の往来を目指す淀川大堰の閘門整備、枚方市駅周辺に開業予定のホテルや観光ステーションのリニューアル、総合文化芸術センターなど有益な観光資源が整いつつある中、本市観光施策を戦略的に推進するため、観光の方針をとりまとめます。

また、文化財をはじめ、スポーツ、商工業、農業等との連携を図り、民間企業等との協働で観光コンテンツや様々なツーリズムの開発・充実に取り組むとともに、民間活力を活用した観光交流施設の整備について検討を進めます。

豊富な観光資源を持つ友好交流都市とN I C Tとの連携を通して、新たな都市交流事業に取り組みます。併せて、グリーンスローモビリティなど、観光資源間の回遊性を高める手法について調査・研究します。

観光ステーションについては、枚方市駅周辺再整備による市駅高架下へのリニューアル移転に伴い、地域の回遊性を高める拠点としての機能強化を図ります。

本市に数多く存在する歴史文化遺産を、地域性や時代等を鑑み、交野ヶ原歴史回廊（古代）、東高野街道歴史回廊（中世）、京街道歴史回廊（近世）の三圏域を設定し、有効に保存・活用を図ると共に、広域連携による観光施策へ活用・展開を図ります。

また、特別史跡百済寺跡再整備事業については、築地塀の復元実施設計などを行うとともに、国史跡である「楠葉台場跡」など史跡公園については活用促進を図ります。

なお、古代枚方の魅力を広く発信するため、特別史跡百済寺跡における市内大学生が作成した創建時のAR映像の紹介、史跡近くの中学校・高校と連携したイベントの開催をはじめ、本市の歴史文化遺産を分かりやすく紹介する映像の作成、百済王氏とゆかりのある自治体との交流（資料館交流や物産展）など、様々な普及啓発事業に取り組みます。

枚方宿については、江戸時代に宿場町として栄えた魅力を市内外に発信するため、地域との共同企画などを、検討します。

旧田中家鋳物民俗資料館については、運営のあり方について検討するとともに、地域の祭りや風習、郷土食など伝承に課題がある歴史文化についても、市民と共に次代に守り伝えられることのできる方策を検討します。

また、地域の多様な関係者を巻き込んだ体制の構築として、枚方版観光地域づくり法人（DMO）について検討します。

具体的な取り組み：地域活性化を踏まえたスポーツ施策の推進

今年の夏に実施予定の東京オリンピック・パラリンピックの機運を高めるスポーツイベントとして、パブリックビューイングやスポーツクライミングなど新たなオリンピック種目を体験できるスポーツイベントを開催します。

地元スポーツチームであるパナソニックパンサーズや FC ティアモ枚方との連携を強化し、より市民に愛されるチームとするために、地域住民と交流できる機会を増やすとともに、広報ひらかたや SNS での発信強化など、市民に対して知名度を高める取り組みを進めます。

また、チームと地域の事業者・事業者等とのマッチングを行うことで、コラボによる新商品の開発をはじめ、チームの集客力を活かして試合観戦と市内観光を組み合わせたツアーの企画など、地域経済の活性化にもつながる「スポーツツーリズム」を推進します。併せて、総合スポーツセンターの体育館や陸上競技場においては、市民の利用機会の確保に留意しながら、プロスポーツイベント等に活用できるよう検討を進めます。

野外活動センターについては、地元と民間事業者との連携によるアウトドアクッキング教室やトレイルランニングなど、コロナ禍においても楽しめる野外活動の利点を活かしたモデル事業に順次取り組み、併せて、施設の今後のあり方について検討を進めます。

具体的な取り組み：「農」を生かした産業の活性化とため池・森林環境の保全

摂南大学農学部や農業従事者、事業者や事業者等との連携を図り、枚方の気候・風土などの地域特性や消費者ニーズに対応した農業特産物の創出に向けて、新たな品目による試行栽培を検討します。併せて6次産業化については、摂南大学との連携による「すももサイダー」の商品化に向けて取り組みを進めるほか、新たな商品開発についても積極的に検討を進め、「農」の産業化に取り組みます。

農業の担い手育成の一環として、新規就農者等によるグループ営農の仕組みづくりをはじめ、農地銀行の活用や農地中間管理機構との連携による遊休農地の利活用検討などに取り組むほか、教育や福祉等の分野との連携に向けて積極的に働きかけを行うなど、農業のもつ多様な効果を生かした取り組みを進めます。

また、豪雨等によるため池の堤防決壊に伴う水害や土砂災害等の未然防止、水防活動の迅速化を図るため、雨量やため池水位を瞬時に把握可能なため池防災テレメータについて、大阪府と連携して設置を進めるとともに、昨年度に策定した森林整備方針に基づき、整備の必要性が高い地域や災害発生時に市民の安全への影響が想定される地域から順次、森林整備に取り組むとともに、林地台帳の整備を進めます。